

ラグナ・コロラダ地熱発電所建設計画（第一段階第一期）【ボリビア】

施策所管局課 国別開発協力第二課

評価年月日 令和7年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	ボリビア多民族国
(2) 案件名	ラグナ・コロラダ地熱発電所建設計画（第一段階第一期）
(3) 目的・事業内容 * 閣議決定日、供与条件などを含む	<p>ボリビアのポトシ県において、地熱発電所建設等を行うことにより、ボリビア国内の将来的な電力需要増への対応及び電力供給の安定化を図り、もって同国の経済発展及び再生可能エネルギー開発を促進し、気候変動の緩和に寄与するもの。</p> <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産井、熱水用還元井、凝縮水用還元井の掘削（坑井試験を含む） ・ 地熱発電所の建設（気水輸送管等を含む） ・ コンサルティング・サービス <p>ア 閣議決定日：平成26年4月25日 イ 供与限度額：24.95億円 ウ 金利：0.65%（コンサルティング・サービスについては0.01%） エ 償還（据置）期間：40（10）年 オ 調達条件：一般アンタイド</p>
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	<p>ア 社会ニーズの現状</p> <p>本事業の計画当初、ボリビアの国家電力系統における2013年の最大電力需要は1,202MWであったのに対し、発電設備容量は1,469MWと国内電力需要を満たすことが出来る発電設備を備えていた一方で、「国家電力系統開発計画 2012-2022」において国内電力需要は2020年まで年平均7%伸びると予測されていたため、新規の電源開発として2020年までに約1,696MWの発電能力増強と約2,946Kmの送電線延長や変電所等の整備を行うことが目標とされていた。また、ボリビアは内陸国で火力発電のための燃料輸送費が高価になる上、南西部は標高が非常に高いために燃焼効率が悪く大規模火力発電所建設</p>

	<p>の妨げとなっている他、水力発電の適地も存在せず、南西部におけるその他電源開発が課題となっていた。</p> <p>現在においても、これらの状況に変化はなく、南西部における地熱等その他電源開発は引き続き不可欠であるため、現在も本事業に関する社会的ニーズがある。</p> <p>イ 事業遅延に関する経緯・現状</p> <p>実施機関の承認プロセスを含む先方政府内の手続きの遅れにより、コンサルタント選定、設計及び掘削用の資機材調達に遅れが生じた。その後、2019年の政変により掘削に係る入札書類検討が中断した上、2020年に発足した新政権により電力需要の見直しが行われたことに伴い更なる遅延が発生した。現在進めている施工監理コンサルタントの選定手続きが完了次第、工事本体の入札手続きを開始予定。</p>
<p>(2) 今後の対応方針</p>	<p>本件に関する社会的ニーズが引き続きあり、事業完成後は当初予定どおりの効果が見込まれており、事業の進捗を妨げていた要因は解決していることから、支援を継続する。</p>
<p>3 政策評価を行う過程において使用した資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交換公文 ・ 外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 ・ 国際協力機構の案件検索 ・ 国際協力機構の事業事前評価表 ・ そのほか国際協力機構から提出された資料